

青山学院横浜英和中学校

算数

大問 6 題の出題となります。図形やグラフに関するものも出題します。①の計算問題は正確に解く力が要求されます。さらに、②③の基本的知識を問う問題でも、確実に得点できるようにしてください。そして、④以降の分野別問題で、どれだけ得点できるかが鍵となるでしょう。

国語

文学的文章（小説・随筆）と論理的文章（評論・説明文）の読解問題と、漢字・語句の知識を問う問題を出題します。読解力に比重を置いて総合的に出しますので、日ごろから偏りなく、さまざまな文章を読んでおくことが大切です。文脈・ポイントを押さえて内容を把握すること、漢字や語句の知識を広げることも重要です。バランスの取れた、確実な国語の知識を身につけておく必要があります。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。基本知識を問う問題、思考問題、身の回りの自然についての問題を、偏りなく出題する予定です。また、各日程で、文章で説明する問題や考えを問う出題があります。

社会

出題範囲は、地理・歴史・総合問題です。地理では、地方ごとに気候の特色・地形・特産物などを確認しておくといでしょう。歴史分野については、古い順に時代名と人物名を漢字で書けるようにして、各時代の出来事・登場人物をまとめて覚えておきましょう。地理・歴史・公民を含んだ総合問題では、最近日本と世界で話題となったニュースに関連する問題を出題します。また、各日程で、文章で説明する問題や自分の考えを述べる問題があります。

神奈川大学附属中学校

算数

問題数は 20 問程度で、すべて答えのみを書く解答形式です。計算問題が数問含まれます。そのほかは、数量に関する問題と図形に関する問題をバランス良く出題します。難しい問題はありません。大問の①や②には取り組みやすい問題を並べているので、全問正解できるようにしてください。

国語

出題は漢字、国語に関する基礎知識、説明的な文章、文学的な文章の大問 4 題です。文字は、漢字問題に限らず、ていねいに書くことを心がけましょう。得点に大きな差が生まれるのは記述問題です。各日程で 3 問～5 問程度、字数指定のあるもの (20～50 字程度) となしいものがあります。近年、後者が増加傾向なので、要注意です。設問の意図を正確に読み取り、まとめる練習をして、書くことに慣れておきましょう。

理科

大問は、A・B 日程は 4 題、C 日程は 2 題で、物理・化学・生物・地学のすべての分野から出題します。各大問は、およそ 25 点ずつの配点で、実験・観察にかかわる問題が中心となります。グラフや図、そのほかのデータなどから思考させる問題も出題します。また、文章での解答を要求する問題を出題することもあります。漢字指定の問題もあります。

社会

A・B 日程では大問は 3 題で、地理的分野 40%、歴史的分野 40%、公民的分野 20%という構成です。C 日程では大問は 2 題で、地理的分野が 50%、歴史的分野が 50%という構成で、ともに公民的分野を含んだ総合問題です。地理的分野はグラフや図の読み取りのほか、産業・人口・自然環境・貿易における日本の特徴や、日本と関係の深い国の特徴を理解することが大切です。歴史的分野は、古代から現代までの重要な歴史的出来事の内容や背景について出題します。公民的分野は、日本の政治や社会の仕組みを中心に、出題します。解答には漢字指定の問題もあります。

関東学院中学校

算数

試験時間は 50 分です。2015 年度からいずれの日程も、計算問題を 4 問、小問を 6 問程度、大問（総合問題）を 1 題出題しています。小問・大問ともに、難度は 2018 年度並みです。大問は思考力を段階的に問う形式で、文章題、グラフ、平面図形などの問題を出题する予定です。大問はいくつかの設問に分かれています。前半は小問と同程度のレベルの問題で、後半は前半がヒントになり解答できる場合もあります。問題をよく読んで、あきらめずに考える習慣をつけてください。出題の範囲は 4 回の日程のなかで、バランスを考え、偏りが無いように心がけています。

国語

2018 年度と同じく、「説明的文章」1 題、「物語文」1 題の出题です。漢字の書き取り、読みも出題されます。問題の分量・難度ともに 2018 年度並みです。記述の問題の比重を少し高くしています。記述問題は、思考力を問うものも出題しています。正解は一つではありませんが、設問が何を問っているのかをしっかりと理解して、解答に取り組むとよいでしょう。正しい日本語で、言いたいことをきちんと伝えられるようにしましょう。選択肢の問題は、問われているところの前後だけを読んで選ぶのではなく、文章全体で書かれていることをつかんでから選ぶことが大切です。本文の読解ができていれば、正解にたどり着くことができる、平易なものが多くなっています。

理科

試験時間は 30 分で、理科単独で行います。2018 年度まで大問 3 題としていましたが、今年度から大問 4 題になります。各日程とも物理・化学・生物・地学の分野から 1 題ずつ出題します。基本的な知識問題と、グラフや表から法則性を見いだして解く思考問題があります。一見、知らない現象が問題の題材になっていたとしても、問題文やグラフや表にヒントがあり、よく読むことで正解にたどり着けるようになっていきます。記述の解答を求める問題もありますので、適切な表現で文章を書くことを心がけてください。

社会

試験時間は 30 分で、社会単独で行います。地理・歴史・公民の各分野から出題しています。歴史については、時代観がつかめているかどうかや、大きな歴史の流れを問う設問があります。「〇〇時代の出来事を選べ」「古い順に並べ替えなさい」などです。地理では地図や資料の読み取りを出題しています。公民分野では、憲法や、国の仕組みについて問う問題を出題します。小学校で学ぶ基本的な用語はどの分野においても書けるようにしておきましょう。

公文国際学園中等部

算数

A・B入試ともに大問5題で基礎事項を確認する問題と、文章題・図形などの総合問題の構成となっています。問題配列は、簡単なものから難しい問題への配列です。頻出問題はまんべんなく出題し、計算力も必要となります。また、読解力、グラフや図を見る力、論理的思考力も必要とします。

出題範囲が限定されていないので、さまざまな問題を解き、苦手分野を作らないようにしてください。途中式やことばでの説明など、相手に自分の考えを伝える練習も大切です。

国語

A・B入試ともに大問3題で、文学的文章と説明的文章、要約問題か漢字・語句等の基本的事項の問題構成となっています。問題文は、文学的文章と説明的文章を合わせて6000字程度の予定です。難しい説明文を前後の内容から類推できるか、小説で登場人物の行動の意味や隠された心理を読み取れるかを問う問題となっています。

日ごろの学習で、やや難しい説明文を根気強く読む練習をし、小説を読むときにも「なぜかな?」と思いながら読む練習をしてみてください。また、本文の要約を120字程度にまとめる練習も役立ちます。

数学

数学検定3級相当のレベルです。主に中学課程の内容を出題します。途中計算をきちんと書けるかどうかを問います。単に計算ができるだけでなく、きちんと理解できるという深いレベルまで学習しましょう。

理科

大問3題の構成となっています。幅広い分野への関心を問い、図や説明文を正しく読み取り、それを利用して問題解決する力が必要です。また、自分の考えや解釈を正しく記述できるかを問います。理科や科学的なことへの関心を深め、基本事項を確認しておきましょう。また、説明文や図表からどのようなことがわかるかを学習しておきましょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野から大問3題の構成となっています。単に知識を確認するだけではなく、年表・地図・図表から必要なデータを読み取る力、論理思考力を問います。時事問題にも関心を持ち、新聞記事やデータと、自分の持っている基礎知識や用語を関連付けて考え、それを伝えることができるよう練習をしましょう。

英語

A入試は英検®準2級程度で、帰国生入試は英検®2級と一部準1級相当の内容となっています。

空所補充、整序、長文読解の出題内容で、大部分は記号選択で一部記述問題となっています。

日ごろから各種の英文に触れ、読解力や語彙力を高めておきましょう。

湘南学園中学校

算数

最初の計算問題と小問集合を正確に、ある程度スピーディーに解くことが大切です。平均や速さ、食塩水の濃度、角度を求める問題は必ず出題しています。その次に、面積や体積の問題を出題しますが、そこでは円周率(3.14)に関する計算ミスをしていないことが大切です。大問⑤⑥は、総合的な文章問題ですが、(1)(2)までは、グラフの読み取りや問題設定を理解すれば解ける問題となっています。前年度までは、A日程(午後入試)については、ほかの日程より複雑な数字や計算が多くなるように意識をして作問していましたが、今年度は、B・C・D日程と同レベルの問題を出題します。

国語

漢字の読み書き、ことばに関する知識問題は必ず出題しています。読解問題は説明文と物語文の2題です。記述問題では文末処理や誤字・脱字による減点があります。読解問題に関して、A日程(午後入試)だけは選択肢問題と抜き出し問題の形式となっています。なお、問題の難度は昨年度まではやや難しめにしていましたが、今年度よりB・C・D日程と同レベルの難度となります。

理科

大問構成は5題です。第1問が小問集合で、第2問～第5問が物理・化学・生物・地学の4分野からそれぞれ1題ずつの出題となります。小問集合は、ほぼどの分野からも、まんべんなく10問程度出題します。基本的な知識を問う問題のほかに、実験や観察を題材として、実験方法や実験器具の使い方を問う問題や、実験結果をもとに考えを進めていく形式の問題を出題します。グラフや表のデータを読み取り、比例などの簡単な計算を行う問題も出ます。また、サイエンスに関する時事問題を出すこともあります。

社会

地理・歴史・総合の3題が一般的です。地理では、いくつかの都道府県や地域の特色を問うものが多くなっています。歴史では、人物名などを暗記しているかどうかよりも、歴史の流れや、同じ時代の政治・経済・文化・外交の関連性をつかんでいるかを重視しています。総合では地理・歴史・公民の知識を問いますが、時事問題も含まれ、グラフや表を読み取る出題もあります。漢字指定のある設問以外は、仮名表記でも構いません。

桐光学園中学校 男子部・女子部

算数

配点は 150 点満点、試験時間は 50 分で、ほぼ例年どおりの出題です。規則性、場合の数、割合、速さなどに関する大問（文章題）を例年出題しています。基礎レベルの問題は全問正解を、標準レベルの問題は 6 割以上の正解を目標にしてください。時間内に 9 割解答できる計算の速さや、考えの熟練が必要です。実際に図やモデルを描いて考えることが大切です。

国語

配点は 150 点満点、試験時間は 50 分で、ほぼ例年どおりの出題です。長めの文章をスピーディーに読み、説明文では文章全体の構成や筆者の主張を、物語文では人物の心情の変化をつかみましょ。また、選択肢の微妙な差異に注意してください。記述問題は部分点を与えるので、積極的に解答してください。漢字・語句の意味、接続詞や副詞の空欄補充などの問題も出題します。

理科

配点は 100 点満点、試験時間は 40 分で、ほぼ例年どおりの出題です。物理・化学・生物・地学の 4 分野から、2～3 分野を融合した問題も出題します。実験結果をもとに作られたグラフや表の見方に慣れておいてください。教科書に載っている図・絵・写真をチェックしておきましょう。

社会

配点は 100 点満点、試験時間は 40 分で、ほぼ例年どおりの出題です。地理と歴史、歴史と公民といった融合問題を出題するほか、外交や国際関係についても出題します。身近な社会・生活や、新聞・テレビで話題の時事問題にも関心を持ちましょ。

法政大学第二中学校

算数

試験時間は 50 分、配点は 100 点です。基本的な知識とそれに基づく応用力を中心に、日常の学習に対する努力と継続力を見る問題を多く出題します。単位は基本的に問題文や解答用紙に記載されています。

国語

試験時間は 50 分、配点は 100 点です。例年、文章をきちんと読み取る力、また、表現できる力を問う問題を多く出題します。本や新聞などで、日常的にたくさんの文章に触れ、読みこなす努力をしてください。

理科

試験時間は 40 分、配点は 75 点です。基礎的な知識と考える力を問う問題を中心に、日常の学習に対する努力と継続力を見る問題が多く、幅広い分野からバランス良く出題します。単位は基本的に問題文や解答用紙に記載されています。時事問題を出題することもあります。

社会

試験時間は 40 分、配点は 75 点です。基礎的な知識と考える力を問う問題を中心に、日常の学習に対する努力と継続力を見る問題が多く、幅広い分野からバランス良く出題します。時事問題を出題することもあります。

森村学園中等部

算数

①計算問題（標準的な四則計算）、②一行問題（割合と比、速さ、場合の数など、算数で扱う基本的な数量関係を問う問題）、③～⑥図形に関する問題（線の長さ、面積、体積、角度などを問う問題）や融合問題（グラフを読み取る、数え上げる、比を用いるなど、工夫を必要とする問題）で構成されます。融合問題の場合、小問を解き進めることで、解答にたどり着くこともあります。全問を通して、円周率は3.14として計算してください。解答欄にはすべて単位を記入済みです。また、答えるときは、約分して既約分数にしましょう。それができていない場合は減点となります。適宜、途中点があります。

国語

問題冊子は13～14ページ程度です。配点88点の読解問題は、(1)説明的文章、(2)文学的文章（ともに44点前後）の順に配列しています。それぞれ3000～4000字程度の文章、10問前後の設問が目安ですが、どちらも文章の難度によって多少の増減があります。(3)は配点12点の漢字の読み書き問題で、書き取りが8問、読みが4問の計12問です。全教科で平均的に得点すると仮定して、合格最低ラインは、ほぼ65%程度になると予想しています。国語という教科の性質上、問題は易から難という配列になってはいないので、いかに易しい問題から取り組んでいくかがポイントです。まずは(3)の漢字、次に自分の得意とするジャンルの問題文から着手するのが望ましく、難しい問題は後回しにする勇氣を持ってください。

〈採点基準〉読解問題の配点は、客観問題で1～4点、記述問題で4～6点が目安です。記述問題は、内容に応じ中間点を与えますが、指定字数を無視した解答はすべて0点扱いになります。一方、漢字は各1点。「とめ・はね・はらい」など、極端に厳格なチェックはしませんが、あいまいな字や、画数が正しい字と異なるような乱れた字は0点とします。

理科

大問が4題で、物理・化学・生物・地学分野からそれぞれ1題ずつ出題します。小学校3年生の教科書にまでさかのぼってまんべんなく学習してください。大問の中の小問は、簡単なものから順に並べるようにしていますが、大問自体は簡単な順に並んでいるとは限らないので、得意な分野の問題から解いていくことをお勧めします。また、教科書の身近な応用や、理科的教養にかかわる問題を出題することがあります。特別に指示がない限り、漢字で書かなくても減点にはしませんが、計算問題で単位を書き忘れたり、「○つ答えなさい」「記号で答えなさい」などの問題の指示に従わなかったりすると減点になります。

社会

1番は歴史の問題で、配点は25%程度。特定の時代に偏ることなく出題します。2番が地理分野、3番が公民分野からの出題で、配点はそれぞれ20%程度になります。4番と5番に「時事問題」と「仲間はずれ問題」を置き、合わせて15%弱の配点になります。「時事問題」は12月までの出来事が範囲になると考えてください。また、「仲間はずれ問題」は分野の指

定はありません。そして、6番が「総合問題」です。これは本校の社会科問題の特徴といってもよい問題ですから、過去にどのような問題が出ているかを調べてみてください。配点は20%を目安にしています。特別難しい知識を要求することはありませんが、考える力を見たいと思っているので、記述は多くなってきます。ふだんから問題に接したときに自分で考えることを心がけ、また、自分の考えを文にまとめる練習をしておいてください。全体の構成・問題量ともに例年と同じようなものになります。特に指示のある場合を除けば、漢字で答えなくても正解とします。なお、論述問題は国語の試験ではないので、文法などを厳格にチェックすることはしません。

山手学院中学校

算数

2019年度も2018年度入試と同様の出題形式です。

全部で20問、1問5点で100点満点です。解答欄には単位がすでに記載されているので、答えのみを書けばよいようになっています。したがって部分点はありません。また、はっきりとわかる数字を書いてください。例えば、「0と6」や「4と9」は見間違いやすいので、ていねいに書くよう心がけてください。分数で答える場合は帯分数でも仮分数でも構いませんが、約分をきちんとしてください。円周率は3.14で計算します。

①は計算が2問です。多少複雑なものもありますが、ゆっくりと慌てずに解きましょう。

②は空所補充の小問が3問で、さまざまな分野から出題されます。

③～⑦は文章題です。配点が全体の約7割を占めますので、きちんと準備をしておく必要があるでしょう。いずれも小問3問です。もし途中で詰まってしまったら次の問題に進み、後で時間が余ったら解き直すのも一つの方法かもしれません。解きやすいものから難しいものへと配置していますが、自分の得意分野から挑戦するのがよいでしょう。

文章題は、小学校で学習する各単元から広く出題されるので、偏りのない学習を心がけてください。例年よく出題されている分野は、「速さ」「割合（濃度）」「場合の数」「図形」「規則性」です。出題傾向をつかむためにも、過去問を少なくとも2年分は学習するとよいでしょう。難度は、基本・標準レベルの問題を多くする予定です。市販されている標準的な問題集に取り組むことで十分な対策となるでしょう。

A日程（午後）については、出題形式・難度ともにほかの日程と共通です。ただし、題問1題分が記述形式で出題されます。問題文で途中経過を書くように指示された問題のみ、解答欄に途中経過を書いてください。答えが出ていなくても部分点が出ますので、考えた過程や計算式を書き残すように心がけてください。

国語

全日程において試験時間50分間、100点満点の試験です。全日程で平均点が6～7割程度の試験になる予定です。なお、A日程（午後）ではほかの日程と比べて、記述問題の割合が増えます。ただし、100字を超えるような解答を求める問いではないので、基本どおり本文の内容をしっかりと押さえ、条件を満たしながら、適切な解答ができるように準備してください。それ以外の日程では、前年度との形式の違いはありません。前年と同様、本文の内容を理解したうえで、さらに考えを深める問題を出題することもあります。

本校では「問いを解くことによって本文の理解が深まること」を心がけて問題を作成しています。日ごろ皆さんが接するものより難しい文章を出題することもあります。そのようなときは是非、問いそのものをヒントにして読み進めてみてください。全日程とも、大問は3題です。大問①は論説文、大問②は小説または随想などの文学的な文章、大問③は漢字の読み書きです。大問①②は読解中心の問題です。大問①の論説文では、本文中のキーワードや指示語、接続詞に注意して、文章の論理的な流れを把握することが大切です。選択記号式の問題のなかには長い選択肢もあります。長さに惑わされないようにしましょう。選択肢そのものを部分に分け、それぞれが本文内容と合っているか、または違っているかを明確に

しながら答えていきましょう。

大問②の文学的な文章では、背景や場面を的確に判断し、登場人物の心の動きをとらえることが大切です。比喻や情景描写は、人物の心情を反映していることも多いので、それらを読み取る力も大切です。論説文と同様に、本文中に根拠を求め、客観的に正解を読み取る必要があります。設問をよく読み、自分の主観や感想を交えないように気をつけてください。記述問題の場合は特に、「何を」「どのように」答えるべきかの判断をしてから、ていねいに答えてください。このときも、あくまで本文の内容に沿って答えましょう。作品のメッセージや表現効果を確認する問題もよく出題します。

また、大問①②では、ことばの意味や使い方、文法問題も出題します。勉強中に知った新しいことばを確認し、熟語集、問題集などで演習しておきましょう。大問③は小学校で学習する範囲の漢字の読み書きを出題します。しっかりとした形を心がけ、ていねいに書きましょう。人に読んでもらう字を書くのだということを考えて、採点者に伝わるように書いてください。

理科

理科の勉強において、知識や計算力はとても大切です。それらは、身の回りの自然や現象、生き物などの観察から身につけることができます。自然界に目を向け、見て感じること、一つの現象に疑問を持つようにしてください。本校の理科では、そうした点を重視しています。また、それを入試問題として出題します。身近な自然現象が、これまでの学習内容とどのように結びつくのか。そのような視点で勉強をしてください。

問題の構成は前年度と同様です。試験時間は40分間で、大問は物理・化学・生物・地学の各分野から1題ずつ、計4題です。各分野、約20点の80点満点となります。それぞれをバランス良く勉強しておくとい良いでしょう。各問ともに基本問題から始まるように作っています。知識を問う問題および計算力を問う問題では、頻出問題も出題するので、確実に得点してください。

また、図や表を読み取り、考察力を問う問題も出題します。暗記だけではなく、応用力が試される問題です。過去問に類似する問題を出題することもあるため、解いておくことをお勧めします。考察力を問う問題では、自分が実験や観察をしているつもりになって解いてみましょう。出題者の意図を読み取り、問題の中にあるヒントを見逃さないようにしてください。一見、初めて見るような問題でも、よく読むと教科書の基本的な内容だったりします。考察問題の出来が合否を分ける可能性もありますので、最後まであきらめずに解きましょう。

社会

例年どおり、地理・歴史・公民の三つの分野から出題します。難度や形式にも大きな変更はありません。各分野ともに、苦手な単元を作らないように、基礎的な知識をしっかりと定着させながら学習を進めることが大切です。地理分野では、表やグラフ、統計を使用した問題を出題しています。初めて目にするものであったとしても、慌てずに落ち着いて正確に読み取れるように問題を解いてください。歴史分野では、原因と結果、起こった出来事の前後関係を意識して勉強すると良いでしょう。資料を使った問題はもちろん、歴史的な内容に対する正しい理解がなされているかどうかを確認するため正誤問題を出題することもあるので、

本校の過去問を参考に対策を進めておいてください。公民分野では、時事問題を出題します。2018年に起こった出来事をよく見返し、内容を整理しておきましょう。また、漢字指定の問題がたくさんあります。どの分野においても、教科書・参考書に載っている語句、習った語句については練習して、正しい漢字で解答することが大切です。